

評価方法

当社では、取締役会が適切に機能しているか毎年検証し、その機能向上を目指しています。

2025年3月期に関する評価は、2025年4月に全ての取締役を対象とした無記名のアンケートを第三者機関の協力のもと実施しました。その集計結果をもとに取締

役会で分析・討議を行い、現状の実効性や改善の進捗状況を確認しました。

この討議を通じて、現状の実効性や、今後強化すべき課題について認識を共有し、継続的な取締役会機能の向上に向けた具体的な取り組みを協議しました。

アンケート評価項目

1. 取締役会の構成
2. 取締役会の運営
3. 取締役会の議論
4. 取締役会のモニタリング機能
5. 社外取締役のパフォーマンス
6. 取締役に対する支援体制
7. トレーニング
8. 株主（投資家）との対話
9. ご自身の取り組み
10. 指名・報酬諮問委員会の運営
11. 監査等委員会
12. 総括

2025年3月期の取締役会実効性評価結果

評価結果の概要	<p>2024年3月期の評価で挙げた課題に対し、一定の取り組みと改善を実施した結果、取締役会は適切に機能していることを確認できました。また、評価項目全般にわたって取締役会の実効性は確保されているものと評価しました。</p> <p>①取締役会は、各担当分野における必要な知識と能力を有している社外取締役を含めて構成されており、適切な体制となっている</p> <p>②取締役会の開催頻度、審議時間、資料の内容・分量は適切である</p> <p>③取締役会の審議において、自由に発言できる雰囲気であり、活発に議論ができており、また、詳細な説明が必要な議案については、社外取締役に対して、事前に説明会が実施されており、活発な議論が行える体制が構築できている</p> <p>④内部統制に関する事項や全社的なリスク管理体制の整備・運用について、十分な議論がなされている</p>
2025年3月期の課題	<p>①取締役会における議論をさらに充実させていくために、引き続き、重要審議事項の選択と集中が必要であり、継続して、グループ経営会議等への権限委譲を検討していく必要がある</p> <p>②取締役会がその期待される役割・機能を果たすため、M&Aした子会社の経営状況や、中期経営計画の進捗状況について、執行役員からの業務執行状況として報告する機会を確保する必要がある</p> <p>③社内取締役と社外取締役とのより円滑なコミュニケーションの機会を確保する必要がある</p>
2026年3月期の施策	<p>①取締役会で審議すべき事項とグループ経営会議等に委譲すべき審議事項の継続した見直し</p> <p>②M&Aした子会社の経営状況や、中期経営計画の進捗状況について、執行役員からの業務執行状況として報告する機会の確保</p> <p>③社内取締役と社外取締役とのより円滑なコミュニケーションを図る機会の確保</p>

評価結果に基づいた課題に対して、施策を講じ、改善を積極的に図り、取締役会のさらなる実効性を高めていきます。